

実習報告（関係機関実習）

佐賀市教育委員会・西部教育事務所の実習を通して学校と地域との連携の在り方を探る

吉野 浩二（教育経営探究コース：現職教員）

【探究実習のテーマと設定の理由】

○ 大学院2年間のテーマ

地域とともに創る学校 ～「地域の教育力」を生かした連携の在り方を探る～

○ 関係機関実習のテーマ

学校と家庭・地域との連携の在り方を探る

～佐賀県内の小中学校の地域との連携の実態と課題について～

○ 探究実習テーマ設定の理由

学校と家庭・地域との連携は、これからの学校運営を行う上で、たいへん重要である。地域との連携に対し、管理職が学校と地域との連携を重視し、地域に働きかけていた。そして、その管理職のリーダーシップのもと、学校全体が同じような意識をもって教育活動に臨むことができていた。そのような学校での勤務経験から、学校と地域とが連携し、教育活動を行うことが大事だと考えるようになった。教育基本法（13条）や学習指導要領（総則）にも、学校運営充実のためには、学校と家庭・地域との連携の必要性が示されている。子どもたちの心豊かで健やかな成長のためには、学校教育だけでなく、学校と家庭・地域が連携し、学校運営や学校の課題に対して、一体となって取り組むことが必要になると考える。しかし、現任校において、以前に比べ、学校と家庭・地域とのつながりが希薄化してきており、学校と家庭・地域との連携もだんだんとできなくなってきた。家庭や地域からの学校への要望や苦情は増え、学校が抱える課題は、複雑化、困難化してきている。そのため、学校だけで対応することが難しくなってきた。対応に追われている現状が続いている。このままでは、学校運営は、ますます厳しくなっていくであろう。今後、どのように変化していくのか予測できない社会を生きぬく子どもたちのためには、「地域の教育力」を生かした学校と家庭・地域との連携がますます必要不可欠となる。このような状況の中、地域の実情や実態に合った学校と家庭・地域との連携の在り方を探り、心豊かで健やかな子どもの育成を目指したいと考える。そこで、探究実習の研究テーマを、「学校と家庭・地域との連携の在り方を探る～佐賀県内の小中学校の地域との連携の実態と課題について～」とした。

【探究実習の研究目標】

関係機関実習では、佐賀県内の小中学校において、学校と家庭・地域との連携の在り方について、実際にどのような取組が行われているのかを探りたい。

佐賀市教育委員会では、佐賀市内小中学校に対し、佐賀市教育委員会が学校と家庭・地域との連携をどのように推進しているのか。地域との連携が進んでいる佐賀市内小中学校の現状を知ることや佐賀市教育委員会のコミュニティ・スクール指定校への学校支援や指導・助言の実態を探りたい。

西部教育事務所では、所轄管内小中学校に対し、学校と家庭・地域との連携について、どのような指導・助言を行っているのか。コミュニティ・スクールについて、市や町を挙げて取り組んでいる嬉野市教育委員会や白石町教育委員会への西部教育事務所の指導・助言等の実態を探りたい。

【探究実習の概要】

表 1 佐賀市教育委員会における探究実習の概要 (9月1日～9月14日)

・事前指導	・学校運営協議会会議参観	・ガイダンス【学校教育課係長】
・コミュニティ参観【指導主事】	・佐賀市教育基本計画について【教育総務課係長】	
・地域コミュニティについて【専門官】	・学校教育課の業務について【指導主事】	
・土曜授業参観	・まなざし運動推進企業訪問【専門官】	・公民館訪問【専門官】
・コミュニティ活動参観	・放課後子ども教室参観	・地域との合同運動会実行委員会参観
・地域との合同運動会参観	・地域コーディネーター業務見学, 研修会	・学校訪問随時

表 2 西部教育事務所における探究実習の概要 (9月15日～9月30日)

・事前指導	・コミュニティ・スクールについて【指導主事】
・特別支援教育について【指導主事】	・問題行動, いじめ, 不登校について【指導主事】
・学力向上について【指導主事】	・サービス・メンタルヘルスについて【管理主任】
・管内の学校概要【管理主事】	・生徒指導班業務補助【指導主事】
・管内中学校訪問準備【指導主任】	・生徒指導班業務補助【指導主事】
・管内小学校訪問準備【指導主任】	・学力向上班業務補助【指導主事】
・学力向上班業務補助【指導主事】	・管内中学校訪問【指導主任】
・企画広報担当業務補助【指導主事】	・企画広報担当業務補助【係長・指導主事】
・学校経営担当業務補助【管理主事】	・学校経営担当業務補助【管理主事】

【探究実習の成果と課題】

(1) 探究実習の成果としては、以下の3点である。

- ① 学校と地域との連携の在り方について学ぶことができた。佐賀市内において学校と地域との連携が進んでいる小学校においては、地域住民が中心となり、学校との連携をすすめていた。コミュニティ・スクール導入等促進事業推進委員会にも参加し、コミュニティ・スクール導入段階での様子も知ることができた。学校が地域住民から支援・協力してもらうだけでなく、学校が地域に貢献していくという視点をもつことが大切であることを学んだ。
- ② 学校と地域との連携の実際について学ぶことができた。佐賀市内の小学校におけるコミュニティ・スクールについて、コミュニティや応援団の実際の活動の様子を参観することができ、自主的・主体的な活動の様子、参加者の思いや願いも聞くことができた。特に、参加者の当事者意識の高さ、「地域でも子どもを育てる」という、学校と地域が一体となった取組について学んだ。
- ③ 学校と地域との連携への行政の役割について学ぶことができた。「子どもへのまなざし運動」(佐賀市市民総参加の子ども育成運動)で、地域で子どもを育もうとする各種団体等の取組についても学んだ。地域の教育力の向上を目指し、市を挙げて熱心に取り組まれている様子を知ることができた。学校と地域との連携については、行政の果たす役割が大きく、行政が学校教育と社会教育の双方へ働きかけを行う取組の実際を知ることができた。

(2) 探究実習の課題としては、以下の2点である。

- ① 学校と地域との連携を構築するには、準備が大切だということである。学校と地域との連携を構築するには、一朝一夕にはできない。準備を入念に行い、活動を積み重ね、粘り強く継続していくことが不可欠になる。
- ② 学校と地域との連携を推進するためには、協働できる体制づくり、組織づくりが重要である。西部教育事務所や佐賀市教育委員会の指導主事のように、前向きで同じ方向性で取り組む組織づくり、協働体制を学校現場で生かしていきたい。そのためには、学校経営の責任者である校長の指導のもと、地域と連携し、子ども・教職員・保護者・地域の人々にとって魅力ある地域の実態に合った連携の在り方を探り、子どもたちの健やかな成長のために尽力していきたい。